

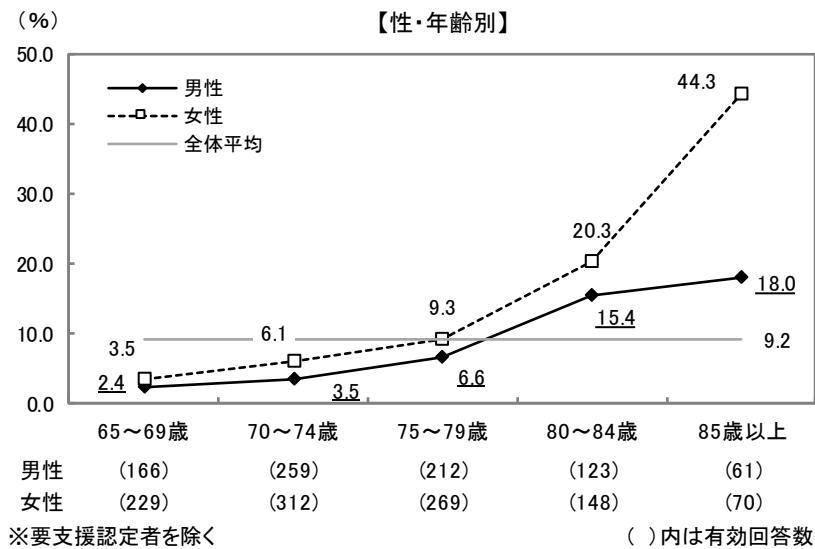
生活機能の低下リスクについて

第3章 からだを動かすことについて

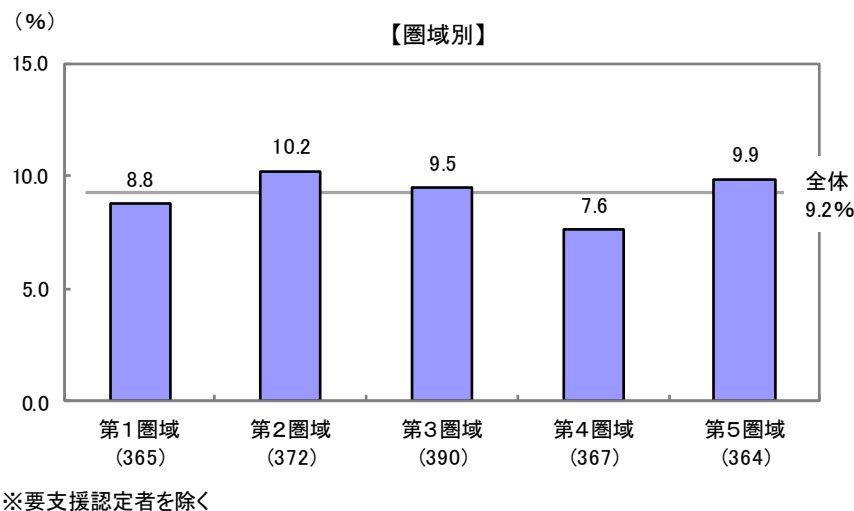
【運動器の機能低下リスク】

3ページの〔参考〕基本チェックリストにより運動機能の低下リスクをみると、運動機能低下のリスク該当者は、全体では9.2%となっています。

性別年齢別でみると、男女とも年齢が高くなるにつれリスク該当者の割合が高くなっています。特に、女性の85歳以上では4割以上がリスク該当者となっています。



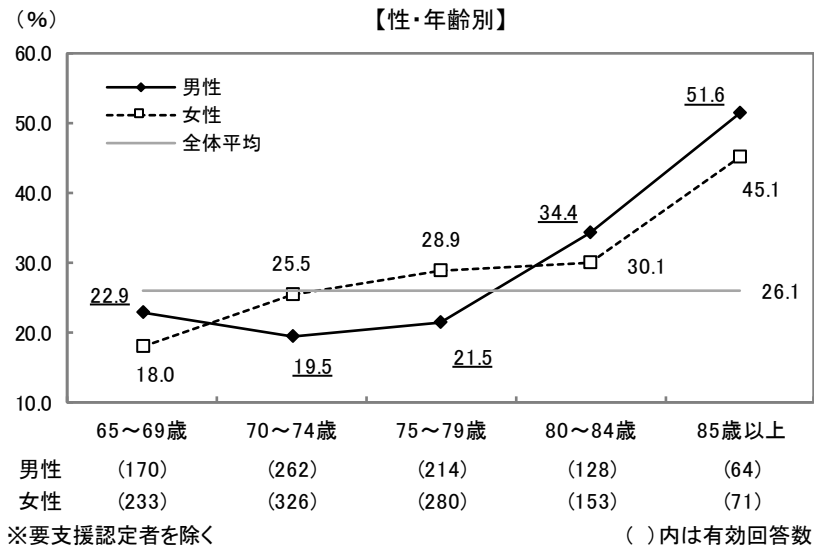
圏域別でみると、第2圏域、第3圏域、第5圏域では、リスク該当者の割合が全体よりも高くなっています。



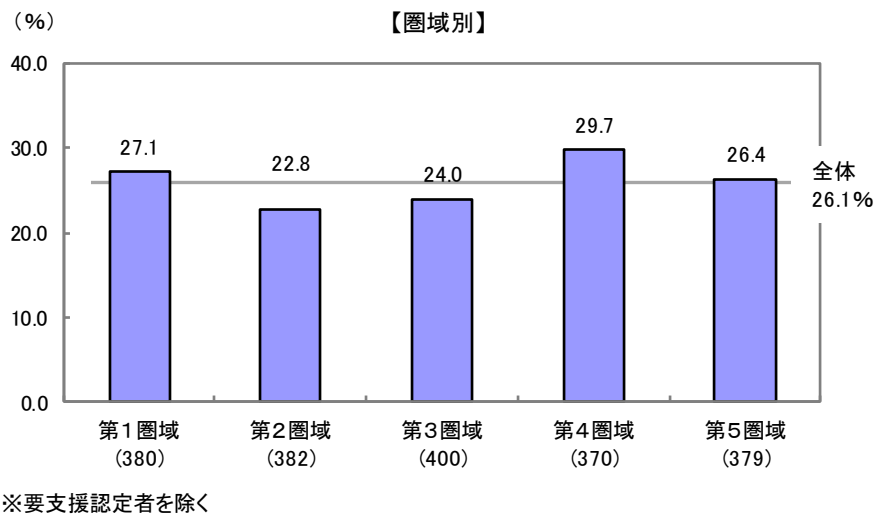
【転倒リスク】

3ページの〔参考〕基本チェックリストにより転倒リスクをみると、運動機能低下のリスク該当者は、全体では26.1%となっています。

性別年齢別でみると、男性では75歳以降、リスク該当者の割合が急増しており、75歳では20%程度であるのに85歳以上では約50%と2.5倍となっています。一方、女性では80歳以降で増加しており、また、男性よりも緩やかな増加となっています。



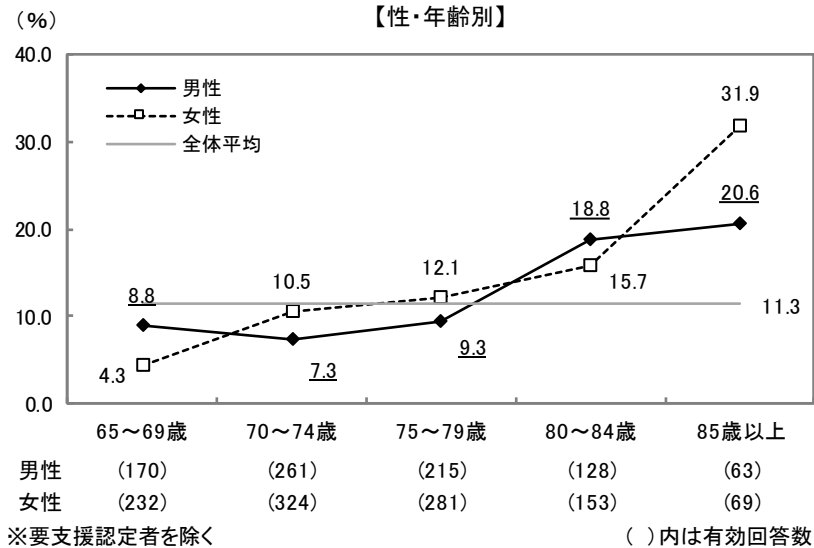
圏域別でみると、第1圏域、第4圏域、第5圏域では、リスク該当者の割合が全体よりも高くなっています。また、リスク該当者の割合が最も低いのは第2圏域で、リスク該当者が最も高い第4圏域と6.9ポイントの差がみられます。



【閉じこもりリスク】

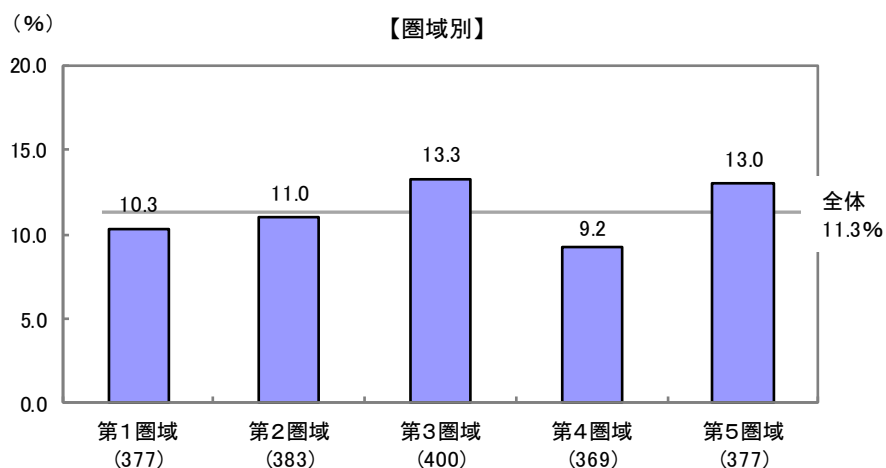
3ページの〔参考〕基本チェックリストにより閉じこもりリスクをみると、運動機能低下のリスク該当者は、全体では11.3%となっています。

性別年齢別でみると、男女とも年齢が高くなるにつれリスク該当者の割合が高くなるものの、男性では増加が緩やかであるのに対し、女性では80～84歳から85歳以上にかけて急激に増加しています。



圏域別でみると、第3圏域、第5圏域では、リスク該当者の割合が全体よりも高くなっています。

また、リスク該当者の割合が最も低いのは第4圏域で、リスク該当者が最も高い第3圏域と4.1ポイントの差がみられます。

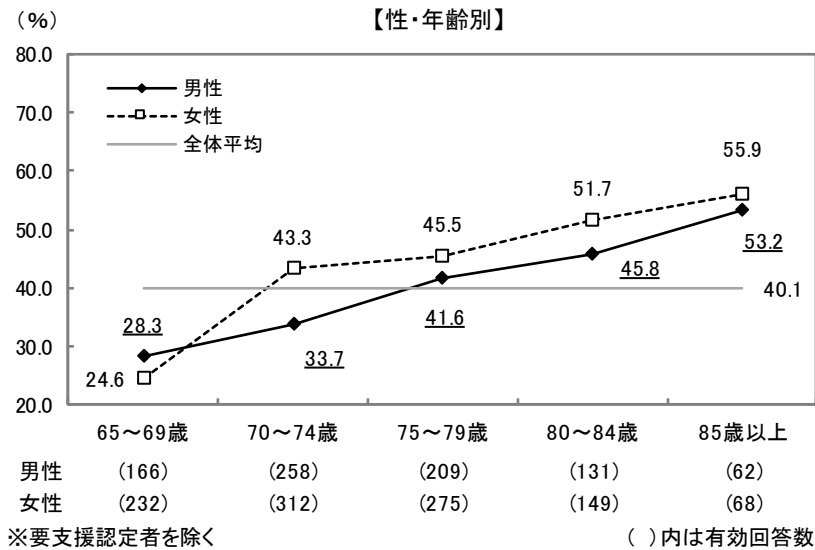


第5章 毎日の生活について

【認知機能の低下リスク】

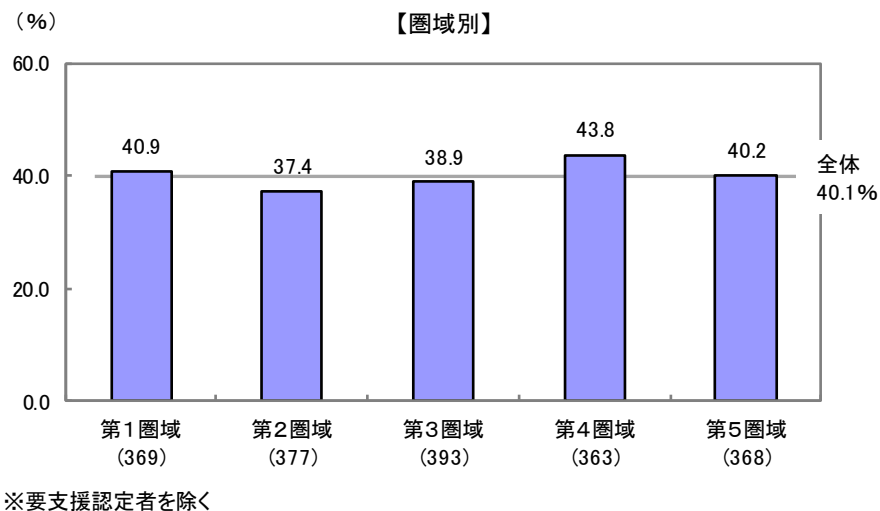
3ページの〔参考〕基本チェックリストにより認知機能の低下リスクをみると、運動機能低下のリスク該当者は、全体では40.1%となっています。

性別年齢別でみると、男女とも年齢が高くなるにつれリスク該当者の割合が高くなっています。また、男女差をみると、70歳以上では、男性に比べ女性でリスク該当者の割合が高く、特に70～74歳では10ポイント程度の差がみられます。



圏域別でみると、第1圏域、第4圏域では、リスク該当者の割合が全体よりも高くなっています。

また、リスク該当者の割合が最も低いのは第2圏域で、最も高い第4圏域と6.4ポイントの差がみられます。

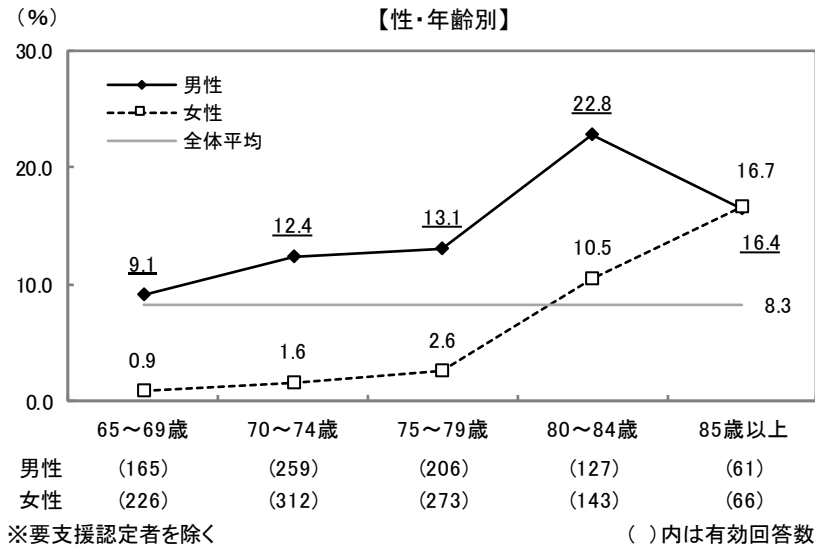


【IADL】

IADLは、手段的日常生活動作能力をいい、食事や排泄などのADL（日常生活動作）よりも、買物・電話・外出などADLよりも高い自立した日常生活をおくる能力を指す～）の低下を問う設問です。

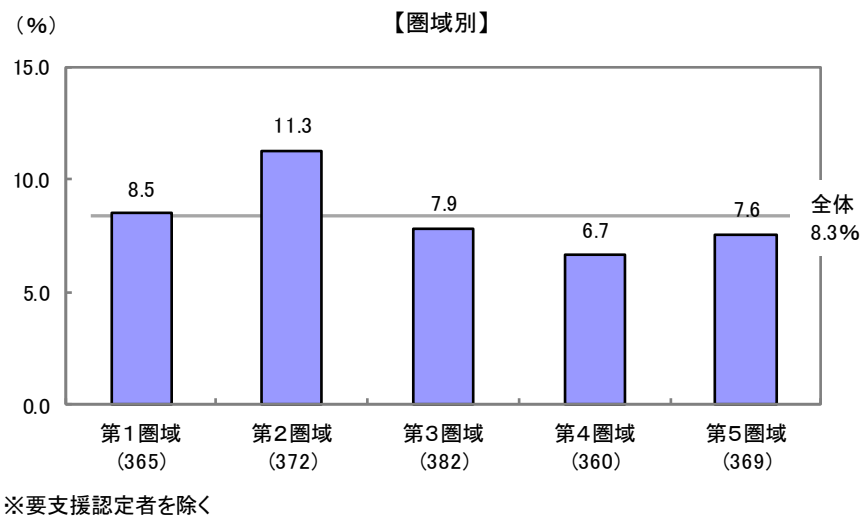
IADL 低下のリスク該当者は、全体では 8.3%となっています。

性別年齢別でみると、女性では 80 歳以上で全体よりもリスク該当者の割合が高くなっているのに対し、男性ではすべての年齢でリスク該当者が全体よりも高くなっています。



圏域別でみると、第1圏域、第2圏域では、リスク該当者の割合が全体よりも高くなっています。

また、リスク該当者の割合が最も低いのは第4圏域で、最も高い第2圏域と 4.6 ポイントの差がみられます。

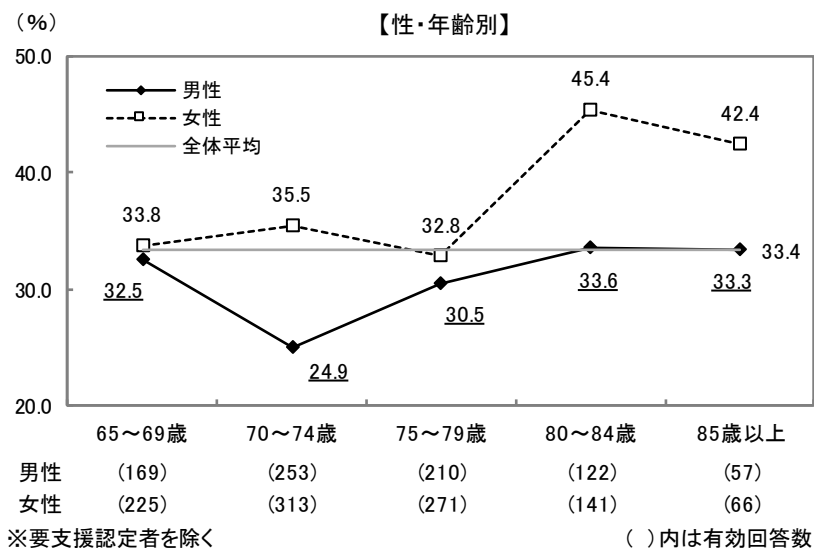


第8章 健康について

【うつリスク】

3ページの〔参考〕基本チェックリストによりうつの低下リスクをみると、運動機能低下のリスク該当者は、全体では33.4%となっています。

性別年齢別でみると、男性では全体の割合と同程度、ないしは全体より低くなっているのに対し、女性の80歳以上では、うつリスクの該当者割合は全体より非常に高く、全体でのリスク該当者割合よりも10ポイント以上高くなっています。



圏域別でみると、第4圏域、第5圏域では、リスク該当者の割合が全体よりも高くなっています。

また、リスク該当者の割合が最も低いのは第1圏域で、最も高い第4圏域と7.0ポイントの差がみられます。

